



安全安心な社会を創る建設技術を紹介します！

第23回 茨城会イブニングセミナー

共催：(公社)土木学会関東支部茨城会・地球環境委員会

土木学会関東支部茨城会では、都市空間の安全安心を創る様々な建設技術について、最先端の研究者・技術者をお招きして勉強する会を広く一般に公開しています。業務との関係を考慮しまして、仕事帰りに勉強できるよう、夕方 18:00 開会のイブニングセミナー形式を取っています。私どもが安心して暮らすことのできる社会を創るための建設技術を多くの方々に知って頂きたい、参加費は無料とし（会場準備の関係上事前登録制）、技術者の継続学習への貢献を考え、希望者には土木学会 CPD 単位をお渡ししております。この度は下に示す講師による講演を企画いたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞお気軽に参加登録を頂ければと存じます。

○開催日時：2020年1月24日（金） 18:15～ 受付：18:00～

○場所：(一社)茨城県産業会館2階研修室（水戸市桜川2-2-35）

○プログラム：

18:15～ 開会

ごあいさつ 土木学会関東支部茨城会 会長 小柳武和（茨城大学名誉教授）

18:30～19:20（質疑応答含む）

演題：気候変動下の「地方の」水災害とその減災適応

講演者：東北大学 土木工学専攻 教授 風間 聡 氏

概要：令和元年台風19号によって宮城県では19河川37箇所（うち県河川18河川36箇所）が破堤した。その範囲は広く、内水による破堤や平成27年破堤の対岸の破堤など特殊な事例も多く見られた。ほとんどの破堤は市街地外で生じている。予算と人員の減少によって中小河川をくまなく管理することは困難であり、ますますリスクは上昇する。従来の河川管理に加えて、人口減と高齢化を考慮した河川管理を考える時期にきている。

19:20～20:10（質疑応答含む）

演題：安価なセンサ類と調査機器を用いたフィールド調査からわかること

講演者：茨城大学 広域水圏環境科学教育研究センター 教授 桑原 祐史 氏
株式会社KSK 石沢 孝 氏

概要：気候変動に伴い、降雨パターンが変化することにより、この10月以来、多くの水災害が発生している。このような中、災害発生から直後までの現場の現況をどのように効果的にとらえるのか、ということが防災・減災に向けた取り組みの趣を議論する上で重要な意味を持つと考える。今回は、ゆっくり変化する現象と、急激に変化する現象を対象として、安価なセンサの応用やドローンなどの調査機器による現地調査事例を多数取り上げ、その効用と限界を議論する。

20:15 閉会

○参加費：無料（事前登録制、連絡先は下記）

○特典：希望者には土木学会 CPD 単位が発行されます（2.0 単位）

○申込方法：下記ウェブページより参加登録をお願いいたします

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdcgf5G68fAlkGG1Lfb8Zw_FZr6Y1XGjwXGpHEvz7f8SZuKWQ/viewform?vc=0&c=0&w=1

○申込期限：2020年1月10日（金）

○連絡先：〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1 茨城大学工学部

土木学会関東支部茨城会事務局 担当：曾我部

TEL / FAX : 0294-38-5160 E-mail : sogabe.natsumi.0123@gmail.com

